

公益信託世田谷まちづくりファンド

第23回助成事業 審査講評

まちづくり活動部門

【2回目応募グループ】

< 1 ZUTTO-KOKO >

- ・介護に関わるあらゆる局面を想定してトータルな取り組みを行う、時宜に適った本当に素晴らしい活動だと思います。様々な主体との連携が広がり、活動内容もどんどん充実している印象を受けました。昨年度と比べて活動のボリュームと予算規模が拡大しているようなので、無理をせずに続けていっていただきたいです。また、そろそろファンド助成終了後の「自立運営方法」を考え始めてはいかがでしょうか、本グループにはきっとそれができると思います。
- ・認知症カフェをぜひ開設していただきたいです。そのために着実な実績と成果が積み上げられてきたのだと感じました。地域の他の団体との連携が進んだことも素晴らしいです。あともうひとつできたらいいなと思うことは、男性や若者のメンバーを増やすことです。若者は大学との接点をつくりだすこと、男性は老人大学や生涯現役ネットワークなどとのコラボレーションにもチャレンジしてみてください。
- ・実直な活動を重ねられていて、感銘を受けました。現状でも十分に助かっている方はいらっしゃるかと思いますが、そのぶん、毎年同様のプログラムを繰り返すことになってしまう団体も多いので、折に触れて、どんな成果を期待するのか、団体の究極の目的は何かを確認して、毎年取り組む事業を検討いただければ幸いです。
- ・地域共生のいえでもある「KIMAMA」を拠点に地域のつながりづくりや、多世代交流の場づくりが展開されていて素晴らしいと思います。また、ネットワークも広く素晴らしいと思いました。こうした拠点が区内に広がっていくための事例として一層のご活躍を期待します。
- ・高齢者社会では、ヤングケアラーやダブルケアラー、男性介護者、老老介護者などにかかえる課題への支援は急務である。その課題に正面から向き合っている本活動は大変有意義である。講演会・勉強会の多さや、スタッフの多さ、関係団体との連携の多

さなど、活動が充実していることを示している。また、ケアラズカフェを軸とした活動はおおいに期待できる。

- ・コミュニティカフェとしての実績を活かした取り組みをされているのだと感じます。認知症という社会的課題にも正面から向き合おうとされている点に共感を覚えます。若い世代のメンバーが増えた理由やヤングケアラー、ダブルケアラーといった方が増えた理由についても、ぜひ教えて頂きたいと感じました。
- ・長年のコミュニティカフェの運営実績がケアラズカフェに反映されているようで、行政や他団体との連携も着実に進んでおり素晴らしいです。今後は他地域のコミュニティカフェとの交流などもしてみてください。
- ・地域包括ケアシステムの担い手として先導的な役割を期待しています。是非、他地域への発信にも力を入れていただき、区全体の地域包括ケアシステムの構築に力を貸してください。

< 2 世田谷区スポーツ鬼ごっこ連盟 >

- ・申請書や審査会でのやりとりから、本企画は「正しい鬼ごっこ」の普及、そのための組織体制強化の側面が強いと思いました。厳しめに見ると、昨年度の活動は「鬼ごっこ」がコミュニティを形成したと言うより、プレーパークや三宿小のコミュニティの力を借りて鬼ごっこが実現したと言えるかも知れません。コミュニティ形成を目指すのならば、申請書に記されていたような組織内部人材の強化ではなく、三宿や砧等の地域に入り込み、地域のハブになる外部人材を協力者として発掘し、その方々を「鬼ごっこ」を通じて支援する形がよいと思います。また、回り道のようなのですが、鬼ごっこを普及しなければならない状況、鬼ごっこすらやりづらい生活・社会環境の省察を通じて、その改善には何が必要かじっくり考えてみるのがより本質的かもしれません。
- ・「遊び」はいろいろな人たちをつないでいけるとても大切な要素です。汗をかいてすっきりした、我を忘れて楽しかった、年齢や所属の垣根をこえてふれあえた、という成果を得ることができたのは、とてもよかったですと思います。一方で、地域のコミュニティづくりとしっかりした指導との関係があるとしたら、「スポーツ」のスキルのどういうところがポイントなのかが知りたかったです。助成金に対して講師謝礼やレンタル料金の割合が多いのが気になりました。

- 鬼ごっこを生かした地域づくりには非常に可能性を感じましたが、あくまでスポーツ鬼ごっこの普及が目的とのことで、その点、残念に感じました。地域のネットワークづくりに役立つ、ということが証明されることで、自然に全国に広がっていくのではないかと思います。ぜひその点について、ご検討いただければ幸いです。
- ルールが覚えやすく幼児から高齢者までが特別な技術がなくてもプレイできるというスポーツ鬼ごっこは、日頃スポーツを行わない人にとっても敷居の低い入口になる可能性がある競技だと思いました。まちづくりの視点から考えると、スポーツ鬼ごっこの普及という視点以外にも、いかに健康づくりの輪を区内に広げていくのかという切り口から多面的に取り組んでいただくことも期待いたします。
- 「スポーツ鬼ごっこ」は体験すれば楽しいもので、地域の子どもからお年寄りまで楽しめるものだとは思いますが、まだまだ知名度が低く、区内での実績もその参加者人数などを考えると、すぐに満額の援助は難しい。また、その普及を通して、地域の活性化を意図していることは理解できるが、区内にいる15名の指導員・審判員を中心に組織の拡大や普及活動、地域興しを積極的に行うことで、より活動の目的が具現化することを期待したい。
- 初年度の申請時に比べると、世田谷の地域に根付いた活動を展開されようという意気込みを感じました。昨年度の活動の中で、区内のアスリートクラブやプレーパーク、若者サポートステーションといった具体的な繋がりを増やされていることがその要因だと思います。
スポーツ鬼ごっこというコンテンツに対するこだわりがあるのは当然だと思いますし、理解も出来ませんが、そこに固執することなく、地域側のニーズもよく聞きながら、コミュニティに広く繋がりをつくる機会を創出して頂きたいなと感じます。
- 「スポーツ鬼ごっこ」は子どもから高齢者まで誰でも楽しめるとありますが、まだ拡がり限定されているように感じました。競技というより気軽に体験して楽しさを実感してもらえるようなチャレンジイベントを各所で積極的に開いてみてはどうでしょうか。
- 連携団体が生まれたことは大きな成果だったと思います。スポーツ鬼ごっこをツールとして、さらに多くの団体や小学校等と連携した活動に広がるように努力してください。

< 3 一般社団法人 グリーフサポートせたがや >

- ・直接企画には関係ありませんが、世田谷にサポコハウスのような場所が存在することの意義は非常に大きいと思います。活動内容の上映会については、まちづくりへの展開可能性、子どもの勇気づけという二重の意味で優れたアイデアだと思いました。他方、Tシャツ展は一般市民へのグリーフに関する理解を深める点で一定の意味はあると思われませんが、まちづくりに接続するには単に展示物を見てもらうだけではない仕掛けを用意されたらよいと思われました。
- ・活動拠点を得ることができた、世田谷区のグリーフケアモデル団体に採用された、というのは大きな成果でした。今年度は「子どもの視点からまちづくりを考える」とのことですが、社会の中でいちばん弱い立場にあって知られることが難しい子どものグリーフを、どのように認知させていくのか。ぜひ緻密に計画を練っていただきたいと思います。今回のファンドの助成グループには子どもや青少年の居場所づくりに関する活動も多いので、連携をはかる工夫もぜひリードして考えていただければと思います。
- ・上映会、Tシャツ展とも、豊かなアウトカムが期待できる良い企画と思いました。とくにインドの子どもたちとの千羽鶴シャツの活動は、他の会場での展示など、活動の認知向上にとってもよさそうです。期待しています。
- ・悲しい記憶を「生きる力」に変えるグリーフサポートという活動はとても大切だと思いました。拠点であるサポコハウスも立ち上がり、まさにこれから多くの人に活動の意義を伝え、賛同者を増やしていくべき時だと思います。その手段として映画会は有効だと思います。助成額が下がっていますが、貴団体のデザインの力があれば、Tシャツ展のパネルの仕様を工夫することなどでコストダウンできるのではないかと思います。
- ・自然災害や人災、病での死別など、人々は多くの悲しみを体験しています。その「グリーフ」を「生きる力」に変える可能性を求めて、地道に活動している姿は大変評価できる。
また、「復興教育」への取り組みを活動の中心にした今年度の活動も素晴らしい。是非、教育委員会や他の団体との共催、後援などを受けながら、活動をさらに広げて頂きたい。なお、多様なスタッフとその人数はその活動を十分可能にしている点で期待できる。
- ・通常の活動を展開しつつ、新たな活動として上映会やTシャツ展示を行われるとい

うことで、非常に意欲的だと思います。一方で、昨年度申請のあった内容との繋がりは良く分からないと感じたことと、純粋にマンパワーとして対応可能なのかと感じました。イベントをやるのであれば、ひろくグリーンサポートというものの持つ価値や意味を、区民に届けられるように、上映会、展示会に加えてワークショップやダイアログなどを実施して頂きたいと思います。

- ・「悲しみ」に寄りそう堅実な活動を重ねてきたうえで、今年度は悲しい記憶を「生きる力」へと変えるような映画の上映会や展示会など新しい展開を考えられたことを評価します。これにより「グリーン」という言葉が広く浸透することを期待します。
- ・新たに取り組むイベントが、本来の活動目的につながるようにプログラムの工夫が必要だと思いました。昨年度提案された日常的な体制づくりも継続して頑張ってください。

< 4 街の木を活かすものづくりの会 >

- ・当会の活動は、ハンドメイド＝木工の普及とは別次元のものであり、「都市の中で自然とともに生きるとはどういうことか」を考えさせられる、奥深さを持っていると思います。ワークショップのクオリティも高いように見受けられますし、このような活動が仕事として営めるようになることを大いに期待します。そして、伐採された木が廃棄物としてではなく、大切な資源として取り扱われるような世となるように、今後もチャレンジを続けていってください。
- ・昨年度1年間で会員数が2倍になった、その中でも専門家の比率が高い、という大きな成果を得られたことはすばらしいと思いました。この活動を継続するためには、ものづくりと並行して、「活かすための仕組みづくり」も必要です。専門家のネットワークを多様にするには「活かすための仕組みづくり」につながる力になります。調査研究や勉強会、提案についての情報発信と公開にもチャレンジしていってください。仲間が集まれば、将来NPO法人化や事業化への道のりも具体的に見えてくると思います。
- ・潜在的な資源、社会的ニーズ、ご自身の持つスキルや道具を結び合わせることで、新たな価値を生み出す、とてもよいスキームの活動です。活動が軌道に乗り広がるのにはもう少し時間がかかるかもしれませんが、ぜひ少しでも実績と経験を重ねてください。

- ・世田谷区内にはみどりの保全に関わる活動が多数ありますが、如何に樹木を伐らないようにするかという視点に立っている事が多いと感じています。伐る必要がある木の事を正しく知ること、伐採される樹木をものづくりに活用していくことで、伐ることがおしまいではなく次の展開につながるということが、こうしたみどりの活動に関わる人にも広まって欲しいと思いました。是非、みどりの保全や風景づくりに関わる活動団体とつながり、連携の輪を広げていただければと期待しています。
- ・街路樹や公園の樹木は区民の心をおおいに癒してきた。その樹木が伐採されて、そのまま廃棄処分になるのは今までの恩恵に対しあまりに非条理である。本活動はその課題に正対し、再び区民に利用されるよう活動している点で大変有意義である。また、住宅地内での樹木の伐採の是非論の解決に向けて住民に働きかけている点も評価できる。今後は街路樹などの復活のため、植林も手がけるなど、活動の充実、拡大がおおいに期待できる。
- ・初年度の申請時に比べると、会員も増え、ワークショップも確実に実施され、成果を実感しました。また団体として団体の古木の利用についてアドバイスを行うなど、新しい展開の芽も見られたのだと思います。壁もあるとは思いますが、ぜひ単に「木を引き取って楽しくプロダクトを作る」のみの団体ではなく、街の木と人の暮らしをどう繋いでいくのか、アドバイスできる団体へと成長して頂きたいと思います。今後の展開に期待をしています。
- ・地域の人々に愛されてきた樹木が突然伐採され処分されてしまうことに悲しみや憤りを感じている区民は私も含め多いと思います。現在されているWSも楽しそうですが今後は行政や他団体と連携して街中の自然と暮らしの関わり方を大きな視点から考え行動するような団体になってください。
- ・活動の幅が広がっており素晴らしいと思います。様々な街の課題解決に会のノウハウが活かされること、また、ファンドの他団体とのコラボなども期待しています。

< 5 烏山地域自転車等適正利用協議会 >

- ・道路交通法が改正されたからといって、自転車の運転マナーが直ちによくなるわけではありません。辛抱強く、繰り返しやらざるを得ないけれども、自転車ユーザーの多い世田谷においては大切な活動だと考えます。特に自転車を移動手段として使っている、学生や子育て中のお母さん等のヘビーユーザーに直接届くような、アウトリーチ活動を積極的に行うのもよいかも知れません。

- ・自転車問題に正面から取り組んでいることにほんとうに頭がさがります。ただ、ファンドの助成金は期限に限りがあります。自転車問題を解決するためのどのような地域の連携にポイントをしぼるのかについてもっと作戦を練っていただければと思います。いま足りない連携は何かを探りましょう。自転車をテーマに活動する他の団体（世田谷カレーパンまつり）との交流は、新しいアイデアが生まれるチャンスです。
- ・課題をわかりやすく知り、多くの人と共有できるすぐれたイベントです。が、長期的にこの活動がどこへつながっていくのかについては、あまり明確ではありません。団体の究極の目的と、いまできることのあいだで、さらに最適な企画があるのではないかと感じます。ぜひ地道に続けていただけましたら幸いです。
- ・自転車問題は烏山以外でも問題となっているので、この活動で得たノウハウを広く他地域にも広げていただくと良いと思います。
- ・近年、自転車が加害者になる事故が多発し、その課題解決が急務となっている。その課題解決を通して、烏山地域を安全で便利な、活気のある街にするための活動は大変意義深い。特に、警察や地域の商店街復興組合や多くの団体と連携し、自転車の安全な乗り方等に関するイベントを実施していることは評価できる。今後も、地道な啓発活動を通して、駅前の違法駐輪などの自転車に関わる課題の解決が期待できる活動である。
- ・重要な問題だと思いますし、地域一丸となって取り組まれていることも良く分かりました。一方で、イベントの中身が何であるのか、烏山らしい自転車ルールづくりとは何なのか、それに向かってどのような努力を展開されるのか、いまひとつ掴むことができませんでした。そうした点について、申請書に丁寧に記載頂けると、より理解が深まるかなと思います。
- ・道路交通法の改正もあり、自転車のマナー問題は大きな社会問題となっています。警察の協力も得、地域諸団体が一丸となってすすめている自転車の地域ルール作りが具体化することを期待します。
- ・自転車利用の地域ルールをつくるという目標に大変興味を持っています。是非、ルールづくりへ向けた具体的な取り組みを進めてください。

< 6 もぐら公園大型遊具・モグリープロジェクト >

- ・「誰のものでもない公共空間」を、自分たちが愛し育むべき場所に変える可能性を持つ、重大な意義を有する活動だと考えます。利用者が自らの手で場所をつくる、まさしく「まちづくりの王道」というべき活動ですが、禁止事項に溢れた大多数の公園の現状を思えば、このような活動の重要性は日々高まっていると言えるでしょう。どうか怪我や事故にだけは気を付けて、より沢山の参加者が集まることを願っています。
- ・自分たちが必要なものを自分たちでつくる。それが子どもから大人までのいろいろな立場の人をつなぐことができる。その自治的な行為は、いまの地域社会に全くといってよいほど欠けていることなので、ぜひ発展させてほしいです。街の木を活かすものづくりの会などとの連携もできるとよいですね。遊具の管理の観点からは、担当者や組織が変わっても問題がないように、行政と覚書を交わすなどしっかりと役割を整理しておいてください。
- ・何かをつくることで、つながりや自信につながっていくという方法は非常に強力です。昨年よりも幅のあるネットワークに広がることを期待しています。
- ・地域の様々な立場の人が力をあわせてシンボルになるものをつくることは、コミュニティを育むとてもいい体験だと思います。他地域が学びたくなるような素敵な活動にしてほしいと思います。
- ・プレーパークの遊具の建設に、そこに遊び来る中高生、子育て中の保護者、運営スタッフ等々の多数の人々が関わり、地域の人々の繋がりが深められた本活動の意義はおおきなものである。また、昨年は飯能市で材料の木を伐り、その木材を使って遊具を造ったり、遊具のデザインを自分たちで行ったりした積極的な活動も評価できる。今後も遊具造りを通して、地域のコミュニティーがさらに深まることが期待できる活動である。
- ・昨年度の申請時に期待した通りの成果が生まれていて、報告を聞いてとても嬉しかったです。皆さんが楽しまれながら活動に取り組んできたことが伝わりました。今年度の活動の際も、地域の多様な方々が広く活動に参加できるように、情報発信やプロセスの共有にはぜひ力を入れて頂きたいなと思います。引き続き頑張ってください。
- ・単に子供が遊びにくる場所だった公園に、自分たちで工夫しながら大きな遊具を作っていく過程で新しい地域コミュニティが芽生えてきたという報告に感動しました。今

後も地域に向け積極的な働きかけをしてもぐら公園が地域交流の核となるような場所にしてください。

- ・多くの方が様々な形で関わったことが良くわかりました。今後も地域のコミュニティ形成のため継続的な活動をお願いします。「街の木を活かすものづくりの会」とコラボすると、もっと素晴らしい活動になるのではと思いました。

< 7 世田谷カレーパンまつり >

- ・若者の就労支援と世田谷の活性化の両方を実施しようとする意欲的な活動企画だと思います。前者については機械的な職業訓練とは異なり、達成感やモチベーションを高めることに重きが置かれているのを見てとれました。このプロジェクトを経験した若者が、自信を持って仕事に取り組めるようになることを願っています。
- ・「食べる」ことの楽しさを、こんなかたちでふくらませてくれた皆さんの力はすごい。場所（世田谷ものづくり学校）と対象（サポステとパン屋さん）が、みごとにデザインの力でつながった成果ですね。今回は冊子づくりに力を入れたいとのこと。いろいろなプロフェッショナルな大人たちと関わるができるなんて、サポステの若者たちにはとても魅力ある活動になりそうです。デザイナーの力量と活躍の場の拡張にしつつ、新しいコミュニティの仕事の開発に向けてがんばってください。
- ・カレーパンの多様性に目をつけた事業計画がまず秀逸です。さらに、若者の職業体験という内部的意図にかかわらず、一般の人を巻き込める企画にしている点も素晴らしいです。ぜひ、どんな人がつくっているのか、多くの人の共感につながるドキュメントになることを期待しています。
- ・カレーパンと若者の職業体験を結びつけるという斬新な発想で、まちづくりに新しい刺激を与えてくれる活動だと思います。昨年度作成された印刷物のクオリティも高く、継続されることでカレーパンブランドがどんどん広がっているのではないかと思います。是非、多くの人に知られる世田谷発祥のイベントとして定着してほしいと思います。
- ・カレーパンを祭にしてしまうヴァイタリティーは素晴らしい。また、働くことに不安や悩みをもつ若者が「カレーパンまつり」の企画、運営に参加することで、就労に前向きになったり、世田谷区のパン屋さん、カレー屋さん、地域住民が繋がったりできたことは、本活動の意義深さを示している。祭の参加者も多く、やがて山形

県でも開催予定があることは、本活動が世田谷区の地域興しのみならず、他の地域での地域興しの見本になる点でも評価できる。

- ・若者サポートステーションの皆さんの成長を伺うことが出来て良かったです。中心になっているデザイナーほか3名の皆さんの推進力に期待しつつも、若者サポートステーションの皆さんの役割もしっかりと位置付けて、イベントの歩みブックの作成を若者の就業にとっても意味あるツールにして頂きたいなと感じます。成果物を拝読する日を楽しみにしています。
- ・みんなが好きなカレーパンを扉にして生きづらさを抱えた若者たちのサポートをしようというアイデアに温かさを感じました。ステーションの方たちも着実に成長しているようなので7月の本番と就活に使える報告書が楽しみです。
- ・昨年度からの若者サポートステーションの若者に参加してもらった活動が充実してきていることがわかりました。さらに若者たちの就業意欲につながる工夫をしていただけだと良いと思います。

< 8 旬のものをみんなで美味しく食べる会 >

- ・健康に気をつけた食事をとること以上に、皆で集まって食事をとることが健康への近道かも知れないと考えさせられる活動です。できる限り多くのひとり暮らしの高齢者に参加していただくことが望ましく、ぜひ参加機会を拡大する方向で進んでほしいと思います。
- ・専門家の方々が地域で連携して活動するよいモデルですね。さて、活動開催場所の確保という課題に対してどのような方針をたてますか？それによって開催回数も変わりますか？食べる人はずっとお客様ですか？ 継続して活動すると次々新しい課題が出てきますが、これまでの成果をできるだけ次につなげられるとよいですね。たとえば、開催者と参加者がいっしょに活動することで、どんどん元気になって積極的になってほしい。参加者の高齢者の方々のもっている地域情報がいつかとても役に立つようになると思います。
- ・想いと技術はあるので、あとは場やネットワークがあれば、活動は飛躍的に広がりそうです。自分たちの活動をさせてもらう場を探すというより、まず区内の拠点の方々とのよい関係をつくることから、場にあわせた活動をひろげていってください。非常に期待しています。

- ・ 独居高齢者へのケアは非常に大切な問題だと思います。若い世代との交流とありますが、それが実現できるともっと良いと思います。空き家やシェアハウスの確保方法、地域組織との連携、独居高齢者の集客手段、若い世代への周知などが課題となってくると思いますが、地域とのつながりづくりに力を入れながら、活動を広げていくことを期待しています。
- ・ 高齢者の独居者が毎日の食事が美味しくなく、やがては食欲も失い、健康まで害してしまうことがあれば大変である。空き家を再利用して、その場に独居の高齢者の方々を誘い、楽しく会食する機会を設け、旬のものを美味しく料理し、食べることを企画、運営している本活動は大変有意義である。また、定期的な活動の実績など、評価できる。若者を参加させる計画があるが、具体的な成果を見守りたい。
- ・ 世田谷まちづくりファンドの繋がりも生かして頂きながら、イベントを開催して頂いたとのこと、とても嬉しく思います。活動場所の制約もあるとのことでしたが、ひとつひとつのハードルをクリアされながら、着実に活動を展開されたのだなと感じました。一方で、活動助成2年目に入りますので、この活動を今後どう継続してゆくのかわ考えながら2年目を過ごして頂きたいと感じました。活動の記録をきちんと残しておくこと、対価収入として利用者もしくは施設側からファンドレイジングを試みることにトライすること、をお勧めしたいと思います。引き続き頑張ってください。
- ・ 若い世代との交流を考えているとのことですが、ファンドに参加している若者グループに声をかけてみてはどうでしょうか。個食が良くないのは子供も同じですから積極的に他団体と協力して意義のある活動を継続してください。
- ・ この活動をどう継続していくか、地域づくりにどうつなげていくのか、考えてみてください。活動場所に苦勞しているようですが、世田谷トラストまちづくりでは「空き家等地域貢献活用相談窓口」を開設していますので、ご相談ください。